

国際協力

2022.1.1

新春号

No.70

JICA 駒ヶ根

地域の皆さまに支えられ、2021年は駒ヶ根訓練所で 134名が訓練修了！ いざ、待ちに待った任国へ！

コロナ禍でも
心の距離は、
いつも近く

2021年4月から再開となった派遣前訓練。今年度は1次隊：42名、2次隊：41名、3次隊：28名、4次隊：23名が駒ヶ根訓練所で訓練を行い、無事訓練を修了しました。

コロナ禍の中での訓練となり、入所前のホテルでの健康観察期間やリモート訓練、オンラインを活用した講座・語学授業など、これまでの訓練とは異なる部分も多くありましたが、どの隊次も訓練生が一丸となり、支え合いながら共に乗り越えていく姿が印象的でした。



修了式に駆けつけてくれたみなこい地域のゆるキャラたちと



語学授業も距離を取りつつ、
様々な工夫をしながら



訓練生企画の自主講座、協力隊
OVスタッフとの本音トーク座談会

当訓練所周辺の地域の皆さまをはじめ、サポートいただいた多くの方々へ改めて感謝申し上げます。2022年もどうぞよろしく願い申し上げます。



着任のご挨拶

長野県青年海外協力隊を育てる会 会長 碓井 稔

皆様、新年明けましておめでとうございます。令和3年5月、長野県経営者協会の会長に就任し、当会会長に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

世界は人々の価値観の変化も含め、いま大きな変動の中で転換期を迎えています。国際社会の相互発展など地球規模での課題に正面から取り組み解決するイノベーションが必要であり、その担い手は高い志と豊かな発想を持つ若者です。こうした若者を育てることが極めて重要であり、当会は大いなる夢と使命感をもって任国・任地に赴いていく若き協力隊員の活躍を、地域から応援・支援していきたいと考えています。そして長野県が今後一層、国際協力に貢献する人材の育成と発信の拠点となることを願っています。

盛況のうちに終了! 第28回協力隊週間 みなこいワールドフェスタのご報告

11月14日～21日の8日間、「第28回協力隊週間みなこいワールドフェスタ」が無事終了しました!

「駒ヶ根青年海外協力隊訓練所がある、みなこい地域だからこそできるイベントにした」という地元の方々の熱い思いから、今年は「海がなくても、空港がなくても、ここで見られる世界がある」というテーマで、オンラインとリアルハイブリッドでの実施となりました。



ドライブinシアター

▶多くの海外協力隊員が活躍するアフリカ・マラウイ国を舞台にし、世界を感動で包んだベストセラー本の映画「風をつかまえた少年」を上映、ご来場いただいた方々には、自家用車の完全なプライベート空間により周囲の方々に気兼ねなくお楽しみいただきました。

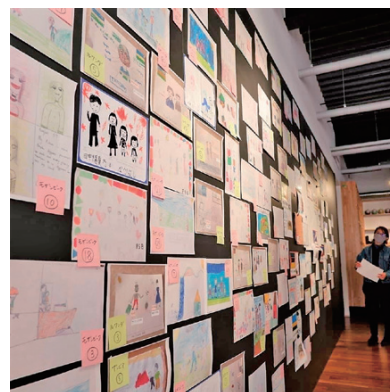
未来を考えよう～2030～「SDGsワークショップ」

▶様々な世代の方々にご集まりいただき、和気あいあいとした雰囲気の中で、SDGsカードゲームを通じて「持続可能な社会」について考え、身近に感じることが出来ました。



MWFコレクションショー

▶JICA海外協力隊帰国隊員のトークイベント、世界各国の民族衣装に身を纏った素敵なモデルさんたちによるファッションショーが、会場でリアル開催+インスタグラムでライブ配信されました!



絵でつながろう! 僕と私と世界の子もたちと

▶世界の子もたちが描いた「家族の絵」と、日本の子もたちが描いた絵からは、着ている服や、住んでいるおうちのなど様々な違いを知ることができ、絵を通じて世界と繋がりました。



ダンスを通じて世界を知ろう

▶タイ、アフリカ、ペルー、フィリピン、ベトナム、ネパールの踊りが、Zoom配信と会場で行われました。言葉ではなく、様々なシーンで使用される音楽と踊りを通して、世界との繋がりを感ずることが出来ました!

世界を遊ぼう!スタンプラリー

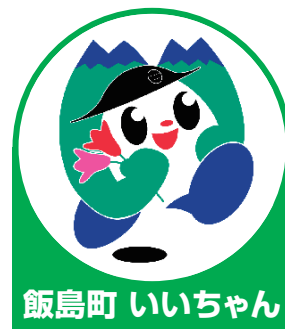
▶5つの遊びコーナーを通して、世界のさまざまな遊びや文化、習慣に触れてもらい、スタンプラリーを楽しむ子どもたちで賑わいました!

ご参加いただいた皆さまには、みなこい地域だからこそ見る・知ることができる世界を体験していただけたのではと思います!

**ご来場・オンライン
参加いただいた皆さま、
ありがとうございました!!**

みなこい地域※4キャラクターが駒ヶ根訓練所応援サポーターとして就任!!

この度、いつも当訓練所を応援いただいている、みなこい地域のゆるキャラたちに応援サポーターとして就任いただきました。各市町村のゆるキャラの皆さん、これからよろしくお願いたします!!



※宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町の頭文字をとったもの

駒ヶ根訓練所で、自分たちの将来・世界のことや、国際協力について考えよう!

学校の社会科見学、キャリア学習の一環や探究学習の時間として、長野県内から多くの中学・高校、大学生の皆さんに來訪いただいています! 今号では2021年に行った施設訪問の一例をご紹介します(2021年度は訓練期間中以外の日程での施設訪問受け入れとなっています)。

①【施設内見学】

▶ 訓練所の設備を見学し、訓練生たちの実際の生活や、開発途上国での安全管理などについて考えてもらいました。



「鍵の種類と重要性について」考える赤穂高校の皆さん

②【異文化理解ワークショップ】

▶ 開発途上国と日本の識字率の違いや、食糧問題から起きる貧困について、参加者の皆さんに体感いただきました。

③【協力隊OV体験談】

▶ 派遣前訓練の内容、どんな想いで協力隊になったのか等、OVの体験談を通し、協力隊制度が生徒の皆さんにも、身近で将来チャレンジ出来ることをお話ししました。

④【語学体験授業】

▶ 訓練所の語学講師による体験授業では、普段の生活の中に隠れているネパール語に興味津々な生徒さんたちの姿が見られました。「将来訓練所に入りたい!」と嬉しそうに話してくれる生徒さんもうっしやいました。



訓練所での学習方法を体験! 中野立志館高校の皆さん

各学校の生徒さんからは、施設訪問を通して「地元にいながら異文化理解が出来た。もっとさまざまな文化に触れたい!」「将来JICA海外協力隊に応募して、訓練所で勉強したい!」という嬉しい声をいただきました。



世界の民族衣装(帽子)を被って集合写真を撮るパシヤリ泰阜中学校の皆さん

施設訪問のプログラム詳細などは、QRコードからご確認ください!



訓練生インタビュー

どんな場所でも人の助けになる

コロナ禍での派遣延期、不安だったことは何ですか。

▶ 訓練延期が決定したときは、協力隊になることしか考えておらず、仕事も辞めており、不安な日々を過ごしていました。そんな中、「コーチング」に出会い、協力隊として海外での活動がすぐにできない状況の中でも、今自分ができるとや行うべきことを明確にでき、自分の心の軸を見つけることができました。

田代さんの心の軸はどのようなものですか。

▶ 「場所がどこであろうとも、目の前にいる方のために自分のできることをする」です。日本にいても海外にいてもやるべきことは変わらないと気がきました。「どんな場所でも人の助けになれる」、「どんな場所でも作業療法ができる」ことが私の目標です。

駒ヶ根訓練所での訓練生活はどうか。

▶ 1日1日が充実していて、濃く楽しい時間を過ごしています。「伝える力」を養いたい気持ちと、任国で講座を行う練習

2021年度 3次隊

た し ろ さ あ や

田代紗彩さん

作業療法士 / ドミニカ共和国派遣予定 / 神奈川県出身



習として「どこでもできるセルフストレッチ」を自主講座で行いました。多くの方に参加してもらい、終了後にフィードバックをもらえたことで、とても勉強になりました。任地で満足ができる活動が行えるよう改善していきたいと思っています。

任国での活動、帰国後のキャリアプランを教えてください。

▶ ドミニカ共和国に移住された日本人の介護予防や住環境を整える活動、また健康講座などを実施する予定です。作業療法は、運動や生活面にアプローチするとともに、その方の活動や作業、また生きがいを大切にしています。現地では、日系の方々の移住当時の話をお伺いするとともに、その方が「大切にしてきたこと・していること」を私も大切にしながら活動していきたいと思っています。

帰国後は、日本にいるスペイン語圏の方々に対して、医療通訳や心のケアなど、安心できる環境づくりに携われたらと思っています。また人としても作業療法士としても人の助けになれるよう、災害ボランティアなどで活動できたらと思っています。

派遣中隊員インタビュー!

コロナ禍においても、JICA海外協力隊員として前に進む続ける小玉隊員。現在JICA駒ヶ根に勤務する同期の野球隊員・越智スタッフと、シンハラ語講師のシリパーラ先生がそんな彼を深掘りし

ます。小玉隊員は、2019年度2次隊として中米・ボリビアに赴任後、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年3月に避難帰国、2021年8月から任国変更でスリランカで活動しています。

2021年度8次隊

こ だま かず ね

小玉和音さん



職種：野球／ボリビア（コロナ禍での帰国）→スリランカ（任国変更）／東京都あきる野市出身

小玉さん(左)と配属先のカウンターパート

越智 ▶ 早速ですが、JICA海外協力隊参加のきっかけを教えてください。

小玉 ▶ 大学を卒業後、教員として働いていましたが、新たなチャレンジとして開発途上国を自分の肌で感じ、現状を知り、好きな野球を通じて国際協力がしたいという気持ちになり、参加を決めました。

越智 ▶ 協力隊への参加に心配なことはありましたか？

小玉 ▶ ありません(笑)強いて言えば、応募時に派遣希望国を選択する際、多くの国から要請があったので、どの国に行こうかと迷ったことですね。

越智 ▶ ボリビアに派遣後、新型コロナウイルス感染症の影響で避難帰国になった時の心境を教えてください。

小玉 ▶ 「やれることはやろう!」という想いで、日本からボリビアに向けて遠隔での技術指導などを行っていました。

越智 ▶ 任国変更の連絡が来た時はどうでしたか？

小玉 ▶ 頭に浮かんだのは、以前テレビ番組の中で「スリランカで有名な日本人トップ10」が紹介された際、ノミネートされていた人が協力隊の野球隊員で、中学時代の野球チームの後輩だったことです。私が協力隊に興味を持つきっかけでもあり、スリランカから連絡がきた時、何かの縁を感じ「行きます」と伝えました。もちろん、ボリビアに戻りたいという気持ちもありましたが、志を高く持ち参加した協力隊活動が、新型コロナウイルスの影響で中断し、待つしかない状況の中で、一歩前に進みたいという気持ちが強かったですね。

シリパーラ ▶ スリランカに任国変更ということで、シンハラ語の勉強を始めた時、どう思っていましたか？



仲良く日本流ストレッチ!

※ボリビアはスペイン語

小玉 ▶ まず文字が読めない!これをやるのかと思ったのが率直な意見です。シリパーラ先生すみません(笑)

越智 ▶ シリパーラ先生からみて小玉さんはどうでしたか？

シリパーラ ▶ 事前学習を含め、きちんと学びたいという意志が伝わってきました。

小玉 ▶ ボリビアで活動していた際、語学の大切さを痛感したことが影響しています。訓練所でも任地でも語学訓練をして、自信を持っていましたが、現地では通用しないことも多い。それが心苦しくて、これじゃダメだなと思っ

ていました。スリランカでの活動任期が短い中で、「何をしに行ったの」という気持ちにならないよう、語学習得は気合を入れていました。

越智 ▶ やはり、自分自身で学ぼうという意志が必要ですね。

シリパーラ ▶ スリランカに着いて、語学の面で困ったことはなかったですか？

小玉 ▶ 今は、会話を聞き取ることができそうですが、最初は会話のスピードが速いなと思いました。現地の人たちは、私が日本人とわかたら英語で話してくれますが、私は英語が得意ではないので「シンハラ語で喋って」と彼らに伝えます。そうすると、シンハラ語が話せることに驚かれます。やはり、現地の言葉を喋るとコミュニティに溶け込むスピードが速いなと感じましたね。

シリパーラ ▶ これからさらに活動が楽しみです。スリランカへ派遣されるまでの間いろいろな取り組みをしていましたね!

小玉 ▶ オンラインでスリランカの人に対して野球の指導をしていましたが、なかなか言葉を伝えるのも動きを伝えるのも難しく、心が折れそうになりました。

シリパーラ ▶ 私は、小玉さんが自信を持ってやれていたと思いますよ。スリランカの人たちも、次第にZoomに慣れてきて指示がよく伝わっていましたよ。

小玉 ▶ ありがとうございます。オンラインで指導していたことで、任地での活動をスムーズに始めることができました。

越智 ▶ コロナ禍でも前に進む続ける小玉さんの想いは、いろいろな人に勇気を与えていますね。

シリパーラ ▶ 帰国後のキャリアプランは決まっていますか？

小玉 ▶ 教員になりたいと思っています。満足できる環境でなくても、好きなことに一生懸命取り組むスリランカの子供たちの話などを、日本の子供たちに伝えていきたいです。

シリパーラ ▶ 素晴らしいですね、これからも頑張ってください!

小玉隊員ありがとうございました!



スリランカ野球発展のために全力投球中!

第5回目は、昭和61年度3次隊/農産物加工隊員として、中米ホンジュラス共和国へ派遣されていた協力隊OVであり、訓練生や関係者には「Hiro」でおなじみの、スペイン語講師・石井裕之先生にお話を伺いました!

—スペイン語との出会いは?

I: 大学卒業後、産業空調設計業務の傍らラテン・ジャズバンドでライブ活動を続けていた時に出会ったコロンビア人歌手のスペイン語に痺れて、ラジオ講座を聴き始めたのがきっかけです。その後、隊員OBでバンド時代の後輩から、協力隊体験を聞き、彼の人間的成長ぶりにも衝撃を受け、中南米圏の協力隊参加を決意しました。活動中も語学に専心することで異文化理解が深まり、物事を俯瞰できるようになりました。

—いつから駒ヶ根訓練所で教えていますか?

I: 1994年からです。民間企業の海外要員として国内やメキシコ支社で通訳や研修員への日本語指導を兼務する内に「教える事」にワクワクしている自分に気づきました。

—訓練所でスペイン語を教えるやり甲斐は?

I: 語学では、誰もが壁にぶつかります。その時、訓練生

が自分を見つめ直し、困難を自ら克服し、いよいよ逆転劇が始まろうとする、その瞬間に感動があり、やり甲斐を感じますね。



石井先生

—語学に励んでいる訓練生へ一言お願いします。

I: 言葉は文化です。実は、異文化理解は訓練所から既に始まっています。現地の人々の負担を軽くするためにも、ここで語学力を最大限伸ばしておきましょう。また、日本文化の良い面、そして悪い面も十分理解した上で、未知の文化に挑んでもらいたいですね!

石井先生ありがとうございました!

シリーズ



みんなで作ろう! 協力隊派遣国 世界のごはんレシピ

Vol.2

ヤッサプレ

ヤッサ=マリネ、プレ=鶏という意味の西アフリカにある、セネガルの料理。



材料(1人分)

- 玉ねぎ…200g
- 鶏もも角切り…200g
- オリーブ…5g
- 炒め油…大さじ4

飾り用野菜

- ・パプリカ…輪切り
- ・きゅうり…斜めスライス
- ・トマト…半月
- ・パセリ
- ・ゆで卵など…輪切り

作り方

- ① 鶏もも肉を下の調味料で15~20分漬ける(マリネする)
塩(2g)・ブラックペッパー(2g)・カエンペッパー(少々)・マギーブイオン(3g)・おろしにんにく(2g)・ディジョンマスタード(5g)・酢(レモン汁)(小1/2)
- ② 玉ねぎもスライスをして下の調味料で和えてマリネする。
塩(2g)・ブラックペッパー(2g)・カエンペッパー(少々)・ジンジャーパウダー(少々)・ディジョンマスタード(5g)・おろしにんにく(2g)・酢(レモン汁)(小1/2)
- ③ 鶏肉は油(大4)で焼き目を付けるように炒める。(オーブンで焼き目を付けてもいいです)
- ④ ③から鶏肉を取り出し③の鍋で玉ねぎ炒める
- ⑤ ④に鶏肉の漬け汁を入れて炒める
塩・チリパウダー・コンソメ・ディジョンマスタード・酢を入れて味を整え弱火で煮る。
- ⑥ ⑤に砂糖(小2)入れて鶏肉を入れて弱火で火を通す。
- ⑦ ⑥にオリーブを入れて出来上がり

食堂スタッフからの一言ポイント!

- セネガルではご飯に少し塩を入れて炊くらしいです。
- 飾り用の野菜はご飯の上に乗せて炒めた鶏肉と共に召し上がり下さい。
- マスタード…ディジョンマスタード!! 胡椒・ブラックペッパー!!
- 少なめの塩分でマリネして炒める時に味を調整する。
- 多めの油で鶏肉や玉ねぎを炒める。
- 酢またはレモン汁ですがどちらかにする(酢+レモン汁はダメ!)
- マギーブイオンまたはコンソメでもOK!



今号では、訓練中の訓練生と一番近くで接しながら、様々なサポートを行う講座班・生活班担当の訓練所スタッフを紹介します!

スタッフ紹介



かとう しゅういち
講座・生活班総括 **加藤 秀一**

平成23年～26年以来、2回目の駒ヶ根訓練所での勤務となりました。コロナ禍での訓練は、以前と大きく変わりましたが、候補者の頑張り、ひたむきさは変わりませんね。駒ヶ根は2つのアルプス、そして高い晴天率が気に入っています。家族3人、猫1匹で駒ヶ根ライフをゆったり、のんびり楽しみたいと思います。



どうき まもる
講座班 **堂木 護**

2021年10月末に着任しました。私自身は、協力隊員としてエクアドルに派遣され農業高校で活動しました。その後はニカラグアに企画調査員(ボランティア事業)として赴任し現地で協力隊員の後方支援をしていました。隊員に必要な知識や心構えを訓練生と共に学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。



しぶや けんいち
生活班 **澁谷 健一**

2006年度3次隊小学校教諭として、大洋州のパプアツ共和国に派遣されておりました。15年前、雄大で美しい自然にあふれる駒ヶ根で訓練を受け、スタッフとして再び同じ場所に戻ってこれたことに喜びを感じております。エネルギー溢れる訓練生たちと充実した時間を過ごしたいと思います。よろしくお願いします。



なかはし いちろう
講座班 **中橋 一朗**

激動のマンママーで約3年を過ごし、昨年夏に帰国しました。伊那谷の平和な生活のありがたさが身に沁みます。駒ヶ根訓練所での勤務は2回目となりますが、新型コロナの影響で訓練の内容も大きく変わっており、新鮮なことばかりです。皆様の温かいご声援を賜りながら、優秀な隊員を世界に送り出せるよう努めてまいります。



おか ひろこ
生活班 **岡 裕子**

大洋州での生活が長く1989年からトンガ王国を拠点に開発事業に携わり、直近では2020年3月までボランティア調整員でフィジー共和国にいました。駒ヶ根訓練所では、協力隊のたまご「宝石の原石」に触れる貴重な機会をいただき、感謝と感動の毎日を過ごしています。



すえまつ ようすけ
講座班 **末松 洋介**

2011年度1次隊でマーシャルに小学校教諭で派遣されておりました。マーシャルはとも小さい国ですが、日本との繋がりが深い国です。マーシャル国民が大好きな食べ物、なんだと思いますか? サッポロ一番です! マーシャルという国を1人でも多くの人に知ってもらえると嬉しです。どうぞよろしくお願いいたします。



やました けんじ
生活班 **山下 健次**

2009年度4次隊で自動車整備隊員としてルワンダ共和国に派遣されておりました。帰国後は自動車整備の道から離れ、児童福祉の世界に携わっておりましたが、今年の1月からJICA駒ヶ根訓練所で勤務しております。いつまでもチャレンジ精神を忘れず過ごしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。



ひろた なつき
講座班 **廣田 夏来**

2009年度3次隊で、陶磁器隊員としてホンジュラス共和国で活動しました。帰国後は宮城県名取市で復興支援業務に携わっており、今年の4月からJICA駒ヶ根訓練所で勤務しております。訓練を受けた駒ヶ根は私の国際協力の原点です。どうぞよろしくお願いいたします。



のむら ゆうすけ
生活班 **野村 祐介**

2019年度2次隊で、タンザニアにコミュニティ開発隊員として派遣されておりました。新型コロナウイルスの影響で緊急帰国したため、同じくコロナ禍で悩みを抱える訓練生の背中を押したく、職員になりました。少しでも訓練生の力になれるよう日々励んでおります。



たまむら あきな
講座班 **玉村 陽菜**

2015年度1次隊で、体育隊員としてモルディブ共和国で活動しました。11月からJICA駒ヶ根訓練所で勤務しておりますが、駒ヶ根の冬の寒さに負けないくらい、元気いっぱい候補者のサポートをしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



はせがわ こういち
生活班 **長谷川 広一**

2008年度1次隊で野菜隊員としてドミニカ共和国で活動していました。協力隊事業のファンで、以前から自然豊かな駒ヶ根訓練所で、訓練生皆さんの情熱に寄り添い、サポートしたいという想いがあり、今年8月より勤務させていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

駒ヶ根から世界へ!

2021年度訓練生インタビュー、JICA駒ヶ根HPIに続々更新中!



発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページ

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

☐ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp までメールでご連絡ください!